

# 歴史情報を探すには

歴史情報を探すための主な資料を紹介します。

## 1 日本史事典

『国史大辞典』全17冊（吉川弘文館 1979-97） [R210.033]

豊富な図版・諸表・系図などを用い歴史的研究成果を解説。約4万2千項目をかな見出しのもとに五十音順に配列。第15巻は補遺・史料索引、人名索引、事項索引、別巻は日本史年表・日本歴史地図を収録。

『日本歴史大辞典』全11冊（河出書房新社 1981） [書庫 R210.033]

事件・人名・作品名などの項目を五十音順に配列。第10巻は補遺と索引。別冊は日本史年表・日本歴史地図。

『日本歴史大事典』全4冊（小学館 2000-01） [R210.03]

項目末に参考文献付。第4巻は索引・資料、資料は系図・年表・諸表などで歴史便覧として役立つ。

『日本史広辞典』（山川出版社 1992-94） [R210.033]

歴史的事件、人名のほかにも団体、儀式作法、風俗、海外の地域など約48000項目を取り上げ解説する。

『角川日本史辞典』新版（角川書店 1997） [R210.03]

考古学・古代史から激動する現代史までの16000項目を収録。

『戦後史大事典』増補版（三省堂 1995） [[R210.76]

敗戦から占領、戦後改革、戦後復興、高度経済成長、経済大国を経て今日まで。未曾有の変貌を遂げた「戦後日本」の50年を集大成。

## 2 世界史事典

『世界歴史大事典』全22冊（教育出版センター 1986） [R203.3]

かなを見出し語に五十音配列。挿絵を多用し、多くの項目に参考文献を添える。第21巻は総索引。第22巻は見出し項目索引、人名索引、地名索引、事項索引、ジャンル別索引、欧文索引、漢字字画索引、歴史文化資料索引で構成。

『アジア歴史事典』全11冊（平凡社 1984） [R220.033]

中国を中心にアジア全域の歴史を解説。各項目末に参考文献がある。第9巻には年号表・記念表がある。第10巻は総索引。別巻にはアジア歴史地図、東洋史料集成がある。

『新編西洋史辞典』改訂増補版（東京創元社 1993） [R230.033] 約5千項目

『新編東洋史辞典』（東京創元社 1986） [R220.03] 約6千項目

## 3 歴史便覧

歴史文献を調べるのに参考になる系統図・年表・暦対照表・史料・図版などが収録されている。

『日本史総覧』全9冊（新人物往来社 1983-86） [R210.036]

時代別・主題別の項目で諸表・一覧表・系譜・索引などを収録した包括的な便覧。

『読史備要』（講談社 1983） [R210.036]

年表・歴朝・武家・官職制・国郡沿革・神社仏閣・年中行事などの一覧、皇室・神仏・儒学・国学・歌学・香道・俳諧・能楽・武術などの系譜、公卿索引・寛政重修諸家譜索引・法号・勅号・五山号などの索引、付録に干支早見盤・方位・時刻対照表などがある。

『日本史資料総覧』（東京書籍 1986） [R210.036]

政治、産業・経済、社会・風俗、人物・文化の各部に分けて関係資料を収録。

#### 4 事物起源・年中行事事典

『**明治事物起源**(明治文化全集別巻)』(日本評論社 1979) [R210.6]

人事部・法政部・国際部・美術部・音楽部…の21編で構成し、近代日本の社会史・文化史でもある。巻末に索引がある。

『**事物起源新事典**』(新和出版社 1986) [R031.4]

大阪を中心とした事物事典。五十音順に項目を配列。

『**事物起源辞典 衣食住編**』(東京堂出版 1986) [R383.03]

身近な衣食住に関するものの起源・発生を探るとともに、今日に定着するまでのいきさつを解明した辞典。服飾関係、食物関係、住居・調度関係、雑の4部構成。

『**江戸編年事典**』(青蛙房 2008) [R210.5]

天正18年の家康入国から慶応3年の大政奉還まで。江戸時代の風俗・経済・市井の事件や自然の災害などを年代順に、その起源と共に記した事典。時代考証に役立つ基礎資料。

『**武家編年事典**』(青蛙房 2008) [R210.5]

お家騒動、敵討、殿中刃傷、大名廃絶、大奥の事件…。家康入国から大政奉還までの287年間、江戸武家社会の年代の変遷を読む事典。政治、経済、制度、風俗、生活など1200項目を収録する。

『**年中行事大辞典**』(吉川弘文館 2009) [R386.1]

古代から現代まで日本列島各地でくり返されてきた年中行事。歴史と生活のなかに息づく多彩な行事を、歴史・美術・民俗学などの最新成果を取り入れ、豊富な図版を駆使して平易に解説。巻末に各月の主要な年中行事の祭事暦、行事名の五十音索引がある。

『**全国年中行事辞典**』(東京堂出版 2007) [R386.1]

元旦から大晦日まで、神輿や山車をくり出す祭礼から家庭で行われる行事まで、多彩な日本の年中行事1530を網羅。祭の行われる月日・社寺名・起源・由来・行事次第・扮装・演目などにわたり解説する。600点の写真も収録。

『**日本年中行事辞典**』(角川書店 1984) [R386.1]

日本の公家社会・武家社会の故実的な年中行事をはじめ、広く一般民衆の行われている民俗行事・民間行事・家庭行事を解説。正月から十二月までの月順に配列。巻末に祭事暦と索引がある。

『**年中行事辞典**』(東京堂出版 1983) [R386.033]

日本で過去に行われた恒例行事、現在行われている年中行事、若干の外国の行事を解説。五十音順配列。

付録として「公武年中行事」「民間行事暦」「祭事暦」「内外公事暦」「忌日・法会表」「無形文化財(芸能・民俗)一覧」と索引がある。

#### 5 年表(日本史・世界史)

『**新国史大年表**』全10巻(国書刊行会 2006-15) [R281.03]

古代より現代まであらゆる分野を網羅した、新しい時代の読む日本史年表。第10巻は、第1巻～第9巻の人名索引、項目索引、見出し語一覧、主要事項索引、正誤表を収録。

『**日本史総合年表**』(吉川弘文館 2005) [R210.03]

「国史大辞典」別巻として活用できる。旧石器時代から2004年まで、政治、経済、社会、文化にわたる38000項目を収録。

『**日本文化総合年表**』(岩波書店 1990) [R210.032]

1988年までの日本文化史上重要と思われる事柄を、学術・宗教、美術・芸能、文学、人事、政治・社会、国外に分けて収録。

『**近代日本総合年表**』第4版(岩波書店 2001) [R210.6]

ペリー来航以降の、政治・経済・社会・学術・芸術などの分野の出来事を広く網羅し詳細に記述した

総合年表。1年の特色を示す流行語や経済指標なども、各年の最後にまとめて記述。

『世界史年表』第2版（岩波書店 2001）[R203.2]

見開き毎に年代・地域を区切り、地域と世界史を構造的に明示する。これまで情報の少なかった地域・国々を十分にカバーし、文化史・社会史の事項も充実。

『世界史大年表』（山川出版 1992）[R203.2]

政治史を中心に1919年まではヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ・日本に分け、1920年以降は世界・日本に分けて表記する。400万年前-1991年まで収録。付録に歴代王朝図、主要国王朝系図、主要国統治者表、西洋人名対照表、西洋地名対照表などがある。

『20世紀年表』（毎日新聞社 1997）[R209.7]

1900年から1996年まで、激動の20世紀を総覧する大年表。世界を動かした事件を日付順に詳述するほか、文化・芸術、生活、流行、人物伝などさまざまなジャンルを設けて、多角的に時代を把握する。

『昭和・平成現代史年表』増補版（小学館 2009）[R210.7]

大正12年から平成20年までの主要事項を収録した現代史年表。金融恐慌からサブプライムローン破綻まで、昭和・平成の「あの時」「あの事件」が一目でわかる。歴代内閣一覧、各種スポーツ記録など、付録も充実。

## 6 年表（主題別）

『近代日本公共図書館年表』（日本図書館協会 2009）[R016.21]

867年から2005年までの日本の公共図書館に関する主要事項を収録。「公共図書館」「図書館界」「一般事項」の3つの欄で構成した年表のほか、「典拠文献一覧」等の資料、索引、コラムなどを掲載。

『日本漢学年表』（大修館書店 1977）[R121.303]

『日本儒学年表』を大幅に改訂増補し、儒学を中心とした日本漢学の発展を年代順に網羅し、昭和45年までを収録。

『日本仏教史年表』（雄山閣出版 1999）[R182.1]

日本仏教とその文化を理解するために欠くことのできない事項を網羅し、政治・社会・文化史上の重要事項との関連を詳細に明記した年表。

『仏教史年表』（法蔵館 1984）[R180.32]

紀元前3千年～1975年の日本・中国・朝鮮・インドの仏教、道教、儒教などの宗教的社会現象を収録。巻末に日本・アジア年号表、各宗帝王歴代一覧、人名索引がある。

『仏教史年表』（新人物往来社 1994）[R180.32]

インドに始まり、中国を経て渡来した仏教の歴史年表。日本・インド・中国・朝鮮・チベットの仏教年表を対照させ、仏教の東洋への伝播を記す。日本の各宗派も網羅。

『昭和・平成家庭史年表』増補版（河出書房新社 2001）[R210.7]

1200冊の社史・業界紙・行政資料、地方紙60紙を中心に掘り起こした昭和・平成の総合生活史。物価の推移から、衣・食・住、ヒット歌謡・映画・流行語などを網羅。ビジュアル資料も多数収載。

『現代世相風俗史年表』増補新版河出書房新社 2009）[R210.76]

広告・流行語、ブーム・新製品、歌謡曲、マンガ、映画、書籍、スポーツ、ファッション、話題の人物、テレビなど、世相風俗から現代を見通し記録した年表。

『索引政治経済大年表』全4巻（東洋経済新報社 1971）[R305]

1840-1965年の社会科学全般に関する年表

『社会・労働運動大年表』新版 2冊（労働旬報社 1995）[R309.021]

1858-1994年の社会運動、労働運動、政治・法律、経済・経営、社会・文化、国際に関する項目を収録。巻末に索引と出典一覧がある。

『値段史年表 明治・大正・昭和』（朝日新聞社 1988）[R337.821]

『値段の風俗史』で取り上げた明治・大正・昭和の218種類の物の値段をまとめた年表。

『近代子ども史年表』2冊（河出書房新社 2002）[R367.61]

明治・大正編は学校、教育制度、海外留学、教科書、就学率の変遷から遊び、スポーツの記録、おもちゃ、童謡、流行語まで、子どもの生活文化史を網羅。明治元年～大正15年までを記載。昭和・平成編は昭和元年(大正15年)から平成12年までの75年間にわたる子どもたちの生活の記録を、家庭・健康、学校・教育、文化・レジャー、社会の4ジャンルに分類して記載。

『日本の食文化史年表』（吉川弘文館 2011）[R383.81]

旧石器時代から今までの3万年間、日本人は何を食べてきたのか。生産・加工・流通や、飢饉・農業政策・饗宴・流行・事件・新製品など、食にまつわるあらゆる事項を網羅。食文化の流れがつかめる便利な索引を付載。

『人類医学年表 古今東西対照』（思文閣出版 1981）[R490.32]

原紙時代から1975年までの医学情報、それに影響を与えた宗教、思想、学術などの項目を収録。巻末に人名索引、件名索引がある。

『世界科学・技術史年表』（原書房 1991）[R502.032]

紀元前9世紀から1988年までの科学・技術上重要と思われる事柄を、物理的科学、生物的科学、技術・工学、社会文化史の4分野別に記載し、6つの時代区分の前に解説文がある。

『環境史年表』明治・大正編、昭和・平成編（河出書房新社 2003-04）[R519.21]

生活史の視点から環境問題に迫るビジュアル版で、食生活、健康、自然保護、開発・公害問題を取り上げる。明治・大正編は明治元年(慶応4年)～大正15年(昭和元年)までの59年間を、昭和・平成編は昭和元年から平成12年までの75年間を収録。

『環境総合年表』（すいれん舎 2010）[R219.2]

環境問題の歴史的な経緯に関する基本情報を体系的・包括的にまとめた年表。1945年～2005年の重要事項統合年表、日本国内トピック別年表、世界各国・地域年表を収録。詳細な地名・人名・事項索引付き。

『日本国有鉄道百年史年表』（日本国有鉄道 1977）[R686.2]

鉄道創設前後から1972年までの国有鉄道の発展経過を中心に主要事項を収録。付録として組織の変遷および昭和47年8月1日現在日本国有鉄道組織一覧、運輸成績一覧、新旧線名対照表、駅名改称一覧、特急旅客列車運転開始日一覧、機関車主要形式製作年次一覧、事はじめ、巻末索引がある。

『日本航空史年表』（日本航空協会 1981）[R687.2]

1910年から1980年3月までの70年を5編に分けて、証言と写真、豆辞典を配して記述する。

『郵政百年史年表』郵政省編（ぎょうせい 1987）[R693.032]

1868年から1970年までの郵政省が管掌する事業および行政の変遷に関する総合年表。巻末に付表と史料目次がある。

『原色図典日本美術史年表』（集英社 1997）[R702.1]

日本美術史(建築史、彫刻史、絵画史、工芸史、書跡史)上で重要と思われる作品・記事の中から、作品・事項に分けて収録。年表上に図録を配している。巻末に日本美術時代概説と近・現代事項欄典拠一覧、図版目録、院政・将軍表、年号索引、年表総索引がある。

『日本美術史年表』新訂版（アルヒーフ 2003）[R702.1]

世界的な視座に立ってまとめた日本美術史年表。現存する美術史的作品、美術作家に関する事項、美術史的意義を有する事件、美術史の考察に必要な国内・外の史実の4項に大別して構成。

『西洋音楽年表』改訂版（音楽之友社 1983）[R762.3]

音楽史学習のための参考書として編纂し、古代・中世・近代の3期に分けて1969年まで収録。巻末に索引がある。

『能楽史年表』全4冊（東京堂出版 2007-10）[R773.03]

能楽および能楽に関連する記事をまとめた、能楽研究に不可欠の本邦初の年表。敏達朝から1867年までのおよそ16,000記事を、古記録類より拾って集録する。

『歌舞伎年表』全8巻（岩波書店 1973）[R774.2]

永禄2年から明治40年までを収録。

『近代歌舞伎年表』大阪篇9巻、京都篇11巻、名古屋篇10巻（八木書店 1986-2017）[R774.26]

明治元年から昭和22年までを収録。

『義太夫年表』近世篇8冊（八木書店 1979-90）[R768.503]

延宝から慶応までを収録。

『義太夫年表』昭和篇3巻（和泉書院 2012-15）[R777.1]

日本の重要無形文化財であり、世界の無形文化遺産である文楽の公演記録をまとめた年表。大夫・三味線・人形の役割を、演目ごと、段ごとに表記。昭和2年から29年までを収録。

『近代体育スポーツ年表』3訂版（大修館書店 1999）[R780.32]

1800年から1997年までの、体育・スポーツに関する事項を網羅した年表。学校関係、社会一般、外国と項目を分けて、それぞれ月日と典拠文献を明記する。

『日本文学大年表』（桜楓社 1986）[R910.32]

日本文学の流れを上代から昭和60年までの日本の文学事項のほか、文化・社会事項までも網羅した年表。巻末に人名索引と作品名索引がある。

『日本近代文学年表』（小学館 1993）[R910.26]

明治元年から昭和64年(平成元年)までに、発表・刊行された小説・戯曲・詩集・歌集・句集・評論・随筆を網羅した本格的な近代文学年表。日本近代文学館はじめ各図書館の膨大な資料を踏査して編成。

## 7 歴史統計・累年統計

『マクミラン世界歴史統計』全3冊（東洋書林 2001-02）[R350.9]

ヨーロッパ41カ国の人口、労働力、農業、工業、対外貿易、運輸・通信、金融・財政、物価、教育等の各テーマにつき、約250年間にわたる精緻なデータを収録した1冊。83年原書房刊「マクミラン世界歴史統計」の新編。

『明治大正国勢総覧』（東洋経済新報社 1982）[R351]

明治初年から大正末年までの各種の統計データを『日本帝国統計年鑑』その他の統計資料から採録し、集大成したもの。経済関係のデータに重点をおいて構成。

『完結昭和国勢総覧』全4冊（東洋経済新報社 1991）[R351]

1926年から1988年までの経済、産業、政治、社会をはじめ、軍事、植民地関係などの諸統計を整理し、昭和時代の推移を計数的に総括することを目指したもの。第4巻には資料解説、統計調査要覧、政治・経済年表、事項索引などを収録。

『全国都市統計総覧』（東洋経済新報社 1982）[R351]

1980年3月末現在の646都市、特別区、政令指定都市の130区部など都市の経済、産業、国民生活などの各種統計を整理集大成したもの。付録に全国主要企業工場一覧、全国金融機関本支店一覧、全国百貨店、スーパー店舗一覧がある。

## 8 系譜・家系事典

『姓氏家系大辞典』（角川書店 1974）[R288.1]

臣連、伴・国造、権門、勢家、本家、武門、武将、守護、地頭、領主、大名などを中心に、明治以前の日本の姓氏約5万について起源、分布、本支の関係を解説。

『日本史諸家系図人名辞典』（講談社 2003）[R288.2]

古代から幕末・明治維新まで歴史を動かした豪族・公家・武家の401家+天皇家・6親王家の系図を掲載

し、主要人物8800人の人名解説をする。名言・名句、ゆかりの史跡・史書ガイド、参考文献などを掲載。

『日本系図綜覧』（名著刊行会 1973）[R288.2]

歴史研究に必要な皇室系譜、諸家系譜、諸道・諸芸の系譜及び国史重要事項一覧を収録する。

『系図綜覧』2巻（国書刊行会 1974）[R288.2]

水戸藩の丸山可澄編「諸家系図纂」と東京帝国大学史料編纂掛が収集した系図等によって編集した系図。

『宮廷公家系図集覧』（東京堂出版 1994）[R288.2]

平安の王朝貴族から近世の宮廷公家まで、上級公家だけでなく、地下家も含めた壮大な公家系図集。絶家となった家系もすべて収録。

『昭和新修華族家系大成』2巻（霞会館 1982）[R288.5]

皇室、皇族、旧皇族、旧王公族の系譜を苗字の五十音順に配列。巻末に付録と解題あり。

『華族大観』（史籍出版 1981）[R288.5]

昭和15年に華族大観刊行会から刊行されたものの復刻。大名家・公卿・神官・政治家・経済人・教育者・軍人・高級官吏を網羅した旧華族970余家を収録。家系・家族・親族関係・宗教・趣味などを記載。巻頭に「華族大観総索引」がある。

『寛永諸家系図伝』全15冊、索引2冊（続群書類従完成会 1980-1997）[F288.2]

江戸幕府が編纂した最初の大名家・旗本諸家の総合的系譜。諸大名・旗本に提出させた系図を清和源氏、平氏、藤原氏、諸氏に分類して収録。索引は家名、諱、呼称(幼名・通称・院号等)、官職による呼称、国名による呼称、女子名姻戚、家紋からなる。

『新訂寛政重修諸家譜』全22冊、索引4冊（続群書類従完成会 1980-81）[F288.2]

諸大名、旗本、武士、医師、茶人など寛政10年までの徳川家臣の系図集成。各家系の由緒、本支分脈を明らかにし、故人の略伝、業績の注がある。索引は氏姓、諱、呼称(幼名・通称・院号等)、官職別による呼称、国名による呼称からなる。

『寛政譜以降旗本家百科事典』全6巻（東洋書林 1997-98）[R288.2]

寛政11年以降慶応4年までの徳川家臣の経歴について「諸向地面取調書」「江戸幕府人名事典」「柳営補任」を基本項目とし、その他の史料で補足して記載。苗字通称諱の五十音順に配列。